

島根大学研究見本市

研究テーマ名 家族内コミュニケーションが青年の自己不一致現象と感情や行動の変化に及ぼす影響（英訳） Influence of family communication patterns on adolescents' self-discrepancies and associated emotional and behavioral consequences

研究者紹介

香川奈緒美
島根大学 教育学部 初等教育開発 准教授
Naomi Kagawa, Ph.D.
Elementary Education, Faculty of Education
Shimane University

概要

自己不一致理論（Higgins's, 1987）の観点から、家族内のコミュニケーション形態と青年が自己に関する矛盾を経験する現象との関係性について研究しています。さらに、青年の家族のコミュニケーション形態と彼らが経験している自己不一致のタイプの違いが、彼らの感情や行動にどのような変化を与えるかを理論立て、分析しています。

This study examines the influence of family communication patterns on adolescents' experiences of self-discrepancies and the associated emotional and behavioral consequences of self-discrepancies. An extension of Higgins's (1987) self-discrepancy theory, it focuses on the self-discrepancies related to three elements of the self-concept, the actual/own self, the actual/parent self, and the self-with-parent self.

特色 研究成果 今後の展望

米国の高校生 126 名を対象に、本研究の基盤となる調査を行った結果、青少年の不安感や鬱の個人差を、家庭内コミュニケーションや自己不一致の違いから、ある程度説明できると分かりました。しかし、説明できない個人差も多く、理論の再検討が求められました。今後、これらの変数の関係性をさらに調査し、理論の確立を図ります。

<基本モデル>



キーワード

家族内コミュニケーション、自己概念、自己不一致

リンク